

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、算数と国語のどちらも東京都の平均を上回っている。国語の「書くこと」の正答率が国語の他領域を相対的に比べると正答率が高くない。

○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動が苦手な児童が多い。

○今までに学習したことを関連付けたり、自ら発展的に考えを広げようとしたりすることが苦手である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○集団検討場面での主体的な態度を促す指導法の改善を図ること。

○計画に基づいた板書や効果的なICT機器の活用とノート指導を徹底すること。

○授業のユニバーサルデザイン化、個別最適化に向けて、以下のように指導法を工夫する。①必要な情報を取り入れる。②情報を比較する。③意図、背景、理由から考えをもつ。④協働学習で練り上げる。⑤音声言語化、文字言語化し、伝える。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

①読み解く力を基盤とした板橋区授業スタンダード、授業スタンダードSの実施・推進を通して、教科指導で児童・生徒が身に付けるべき資質・能力を育成する。

②「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、解決に力等を身に付けさせること」を目的としている総合的な学習の時間を充実させる。

③「情報及び情報技術を活用する」力である情報活用能力を育成する。

④ALTとの交流や外国語の学習を通して異文化交流や多様性を尊重する学びを日常的に取り入れ、外国の文化言語に触れる機会を意図的・計画的に設ける。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	総合的な学習の時間との連携
・「板橋区授業スタンダード」に基づく学習形態である「志村小学習スタイル」（つかむ・考える・学び合う・まとめる・振り返る）という問題解決型の学習を実施する。	・一人一台端末を積極的に活用し、文字や写真、動画、グラフ資料の提示や、児童の考えを書き込んだ教材を共有する等、理解を促進させる。	・板橋区の自然や地域との関わりを深めるとともに、SDGsを核とした探究的な学習を通して、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質・能力を育てる。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
・6年間同一班に所属する縦割り班活動を定期的に行う。 ・FLC学びのエリアの小・中学校との一貫した教育を目指し、9年間を見通した単元配列表を作成する。 ・保幼小接続・小中一貫教育コーディネーターを中心にして、地域保育園との直接交流を行い、スタートカリキュラムを活用した保幼小接続教育を推進する。	・志村サミットを学期に一度開催し、ルールの見直しを検討する ・「あいさつ運動」「言葉の集会」等を設定し、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を育み、社会の一員としての自覚を高める。 ・話し合い活動を核として学級活動を充実させ、学級集団の協働性の向上や問題を解決する資質や能力と実践的な態度を育てる。	・不登校児童の家庭とのつながりを大切にし、家庭訪問やオンライン面談、別室登校など、児童一人ひとりの状況に応じて、学びを継続させる。 ・感染症や災害発生により、やむを得ず学校に登校できない状況には、一人一台端末を活用し、児童の学びを保証する。